

普及活動情勢報告（令和4年1月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

新害虫フタテンミドリヒメヨコバイの発生にご注意を！ ～JA 土佐くろしおオクラ部会決算総会～



フタテンミドリヒメヨコバイについて説明する普及指導員

12月16日、JA土佐くろしお大間出荷場にて、オクラ部会の決算総会が開催され、生産者6人と関係者が出席しました。JA高知県販売事業本部から販売情勢の報告。JA土佐くろしお販売課から令和3園芸年度事業実績及び令和4年度事業計画等の議案説明があり、承認されました。

当課からは、今年県内のナスで初めて発生が確認されたフタテンミドリヒメヨコバイの生態や防除対策について情報提供しました。管内での発生は確認されていませんが、生産者からはナスやオクラ以外での発生や防除対策に関する質問があり、本害虫への注意喚起を行うことができました。

今後は、巡回指導や現地検討会を通して、発生確認調査と防除対策の情報提供を行っていきます。

集落営農組織設立に向けて ～集落営農とは～



組織化のメリットを説明する普及指導員

12月16日、中土佐町大野見の大股農業共同館で、集落営農組織について説明会を開催し、当地区の中心的生产者7人が参加しました。

当課からは、地区の現状を踏まえた集落営農のスタイルや集落営農の役割を説明しました。参加者からは、「まずは共同で取り組めることから始めよう」「農地条件を整えていかなくては」など設立に向けて意欲的な意見が出ました。また、年度内に機械の所有状況などについて、アンケート調査を行う事になりました。

当課は、大股地区での組織化を目指し、先進地視察研修やビジョン作成に向け支援します。

一戸一戸に寄り添った支援を ～津野山米ナス経営目標面談～



生産者と面談する普及指導員ら

JA 高知県高西地区津野山なす部会の米ナス生産者10戸を対象に経営目標面談を12月22日から開始しました。

JAと連携し、新型コロナウイルス対策に留意しながら、各生産者を訪問し面談を実施しました。生産者に今作の振り返りをしてもらい、反省点や来作の収量目標、目標達成に向けた取組を聞き取りました。生産者からは追肥管理や土壌消毒方法等についての相談や質問が出ました。課題解決に向けた情報提供も行い、協議の結果、それぞれの戸別収量目標を設定することができました。

当課では、今後もJAと連携し、目標収量達成に向けた改善策の実践支援をしていきます。

集落営農組織などの連携に向けて！ ～組織間連携についての意見交換会～



組織間連携の必要性を説明する普及指導員

12月23日、中土佐町役場大野見振興局で、組織間連携について意見交換を行い、町内の3集落営農組織代表者3人及びJA等関係機関7人が参加しました。

当課は組織間連携について、各組織から同意を得て、素案を取りまとめ、当日は意見交換会の進行をしました。

組織からは「これから更に、農地の委託が増える可能性があり、もっと受け皿が必要」などの戦略的な意見が出ました。

今後は、出された意見をもとに素案の修正を行い、組織間連携の実現に向け支援していくとともに、他市町でも同様の取り組みを進めます。

今年栽培を振り返りましょう！ ～津野山ミョウガ部会反省会～



収量アップのポイントを説明する普及指導員

12月23日、JA高知県津野山営農経済センター会議室で津野山ミョウガ部会反省会が開催され、生産者15戸が出席しました。

JAからは、今作の出荷販売実績の報告とGAP点検シートの回収について情報提供がありました。

当課からは、生育調査結果の考察とそれに基づいた生育診断の目安について説明しました。併せて、12月始めに視察研修した宿毛市の篤農家ほ場での内容についても共有し、生産者は高い管理技術に関心を示しました。

今後も関係機関と連携し、次作の生産力向上を目指し、栽培管理技術の向上支援に努めていきます。

「道の駅」のブドウ販売額の向上を目指して ～ブドウ栽培勉強会～



せん定方法について説明する普及指導員

1月13日、津野町の2ヶ所のブドウ園で栽培勉強会を開催し、生産者14人が参加しました。小規模な栽培で、主に「道の駅」などで販売しています。

当課は、ブドウのせん定方法については場で実演し、生育ステージ毎の栽培管理上の留意点を説明しました。また、昨年改正された種苗法についても周知しました。

生産者からは「せん定の仕方が分かったので、再度せん定をやり直したい」という声がありました。

今後も地域の直販所の販売品目を確保するため栽培面積が小さい果樹についても収量と品質が向上するよう支援していきます。